

2014. 11. 23 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2014年

<聖化の豊かさを味わう>「聖化の説教」④

「罪を隠さず、きよめる神の恵み」(創世記 35:16-20)

COG酒田教会・高橋富三牧師

序:「押しのける者(ヤコブ)」が「神の皇太子(イスラエル)」へ」

*竿代注:イスラエルの語源となったサーラーは、「耐える、努力する」との意味で、転じて「争う」となった。現在は「神と争う者」との解釈が有力であるが、古い学者は、「王子的な力をもって神と争った」と言う考え方から「神の皇太子」と理解する。

1. 苦しみを力に帰る神の恵み(18節)

- ・ヤコブの妻ラケルは酷い陣痛の中で出産した子供を「ベン(こども)・オニ(私の苦しみの)」と命名した。しかし、
- ・ヤコブは「ベニ(こども)ヤミン(幸運の)」と改名した。
*竿代注:ヤーミーンは、文字通りには「右手の」であるが、意識して「私の幸運を背負った子」と解する人もいる。
- ・苦しみにぶつかる時、それを希望に変える神の恵みを信じよう(ローマ 5:3-5)。

2. 死の先まで備えてくださる神の恵み(29節)

- ・相争っていた兄エサウと弟ヤコブは、父イサクを共に葬った。互いの和解ができていたからである。
- ・私たちも、天国への希望を持っているならば、互いの赦しが可能となる。

3. 罪を隠さず、きよめる神の恵み(22節)

- ・ヤコブ家には、多くの汚点があった。妻たちの争い、長男の不品行、四男の不道徳などなどがあるが、聖書はそれらを隠さず、ありのまま

に記している。

- ・ イエス・キリストの系図に出てくる四人の女性も、みな「ワケあり」の女性であった。
- ・ これらの記事は、罪の醜い現実を示し、同時に、その罪の身代わりとなったキリストの事実を示している。

結 神の恵みの時

- ・ アブラハム、イサク、ヤコブの生涯は、躓き、弱さ、偽り、争い、脱線に満ちている。しかし、新約聖書は、キリストの赦しの恵みによる救いを示している(1ヨハネ 1:7)。
- ・ そのきよめは、ペンテコステにおいて成就した(使徒 1:8)。終わりの日、すべての人に聖霊を注ぐ、とヨエルが預言したが、それはペンテコステの時に成就した(使徒：17, 18)。